

2018年度 事業計画

1. 日本の保育を担うすぐれた保育者の育成

2018年は柳城学院にとって創立120周年の記念の年である。初心に帰り120年の歴史を振り返るとともに、長い歴史の中で培われた「愛をもって仕えよ」という建学の精神が、学生、教職員の間にいきいきと満ち溢れた学園を構築する。キリスト教主義の教育理念に基づき、神様から与えられた命に感謝し、人と人とのつながりを大切にし、他者へのやさしい思いやりをもち、献身的に社会に貢献しようとする保育者を育てる。

人間としての基礎を築く大切な幼児期にあって、子どもたちの遊びを中心とする保育を進め、保育者としての専門的知識、実践力、コミュニケーション力を身に着け、地域社会から望まれる保育者を育てる。

教員によるアドバイザー制度、オフィスアワー制度を活用し、学生への学習支援、特に実習教育の指導・支援に努める。また公務員対策講座の実施、進路指導や就職相談を行うなど積極的にキャリアサポートを強化する。

卒業生の就職後の支援に力を入れ、初任・現任保育士研修、教員免許状更新講習、キャリアアップ研修等を実施し、地域社会でのすぐれた保育者の育成に貢献する。また本学卒業生のネットワークを構築し、保育士、幼稚園教諭の資格を持ち再就職を希望している人材を掘り起こし、保育者不足の幼稚園や保育園の要望に応える。

2. 4年制大学新設の検討

これまでの名古屋柳城短期大学の保育科、保育専攻、介護福祉専攻の定員・体制を見直し、4年制大学の新設を含め質の高い保育者養成校として新たな柳城学院大学・名古屋柳城短期大学を目指す。

2020年4月に4年制大学「柳城学院大学こども学部」の新設を目指し、「大学設置準備室」を設け、2018年10月文科省への認可申請を行う。またどんな大学を目指すのか、どんな保育者を養成するのか、新たな大学の体制はどんな体制か、その理念の構築を目指す。

我々の目指す新たな柳城学院大学、名古屋柳城短期大学の学生確保の見通しを把握するため、高校2年生を対象としたアンケート調査を実施する。また保育現場における4年制大学のニーズを把握するため、愛知県内の幼稚園、保育園、施設などを対象にアンケート調査、インタビュー調査を実施する。

3. 魅力的なキャンパス整備の推進

2017年度、2号館カフェ棟の増築により1階に学生食堂、2階にラーニ

ングcommons、3階に屋上テラスが実現、魅力的なキャンパス整備の第1期工事が完成した。

さらに2018年～2019年度、4年制大学の申請を見定めながら、キャンパス整備計画を継続して推進する。1号館と2号館の間に新3号館を建設、4年制大学のための教室・研究室の増設、ロッカー室の整備と各階を接続して学園を一体化する動線の確保、エレベーターの設置によるバリアフリー化、ピアノ練習室の増設、アクティブラーニング教室の新設、小ラウンジを設置し学生間コミュニケーションスペースの充実を検討する。また1号館改修により、耐震工事の実施、学生支援センターの設置など学生が夢をもって学び、充実した学園生活を送れるキャンパスを創造する。

4. 保育科、保育専攻科の入学者の確保

少子化が進む中18歳人口の減少は日本の大学全体に影響を与えており、保育系大学、短大、専門学校でも半数以上が入学者の定員割れとなった。名古屋柳城短期大学保育科の入学者は2017年度は176人、2018年度は166名以下と連続して定員割れが必至となった。

2019年度は保育科入学者の確保をめざして、既存メディアの活用とともに学生参加によるSNSなど様々な広報活動を積極的に展開する。またオープンキャンパスや高校訪問など全学的な活動をすすめる、専願希望者によるAO入試、指定校推薦入試に力を入れ、保育科入学者の確保を目指す。今まで定員割れとなっていた専攻科保育専攻は、2018年度15名の入学者を確保できた。4年制大学実現への実績を作るためにも全学をあげ積極的に専攻科保育専攻への入学者を確保したい。

5. 社会の要請にこたえる幼児教育・保育の確立

いま日本では、安心して子育てができるための社会体制づくり、特に幼児教育・保育について強い社会的ニーズがある。附属豊田幼稚園では幼保連携型認定こども園の2019年開設を目指し、魅力的なこども園舎を完成させるとともに、保育教諭の確保などその体制に万全を期す。

附属幼稚園は、地域から要望の強い0～3歳児の保育、遊びを中心とした質の高い幼児教育の維持に努めるとともに、地域の子育て拠点としての役割を果たし入園児の確保に努力する。

すぐれた若手保育者の育成に努めるとともに、結婚、出産、育児の時期にも保育の仕事が継続でき、いつでも復帰できるように、附属幼稚園教職員の待遇を改善し、継続してすぐれた幼稚園教諭、保育教諭の確保に努める。

6. 開かれた大学として地域社会への貢献

大学と附属幼稚園と協力して、子育て拠点として地域社会への貢献をめざす。改装なったキッズルームを活用し、赤ちゃん教室や母親教室の開催、ラーニングコモンズを活用して紙芝居や本の読み聞かせ教室などを開催、地域社会に貢献するとともに、あわせて学生の子育て体験の場として活用する。

地域社会に開かれた大学として、体育館や教室、実習設備など大学設備を地域に貸し出すとともに、柳城祭や子どもフェスタの開催、公開講座の実施、地域社協との協力活動、認知症カフェの開催など地域の子育て拠点、介護福祉拠点としての役割を果たす。

また学生の主体的なボランティア活動を活発にし、地域の子育て支援、障害者支援、介護福祉支援など地域社会への貢献を推進する。

7. 将来計画の策定と教職員体制の確立

大学設置準備室の設置により、保育科、専攻科の見直しを進めるとともに、4年制大学の新設など柳城学院の中長期を展望するビジョンを策定する。

2017年度から本学が日本聖公会保育連盟の事務局校を務めているが、聖公会の保育者養成校と連携をさらに密にし、全国130を数える幼稚園、保育園との交流を密にし、「聖公会保育コンソーシアム」によるキリスト教保育の確立に努める。

教職員が協力して、将来展望を活発に語り合うFD、SD研修を実施する。法人業務、総務・経理業務、教務、入試広報、就職など学生支援業務、図書業務の見直しなど将来展望を見据えた組織、職員体制を検討する。また各種委員会、会議などより効率的で効果的な改革を検討する。人事制度、給与制度についても将来を見据えた改革を検討する。

8. 資金計画の確立、経費の節減、業務の効率的運用、募金の実施

2018年～2023年の6か年は、豊田こども園の新築、短大キャンパスの整備、4年制大学の設置など多額の資金を必要とする事業が続く。将来を見通し確かな資金計画を立て着実にこれを実施していく。毎年度の予算の執行に当たっては、経費の節減、業務の効率的運用に努める。

創立120周年に当たり、後援会、同窓会、教会関係など広く内外に呼びかけ「120周年記念募金」を実施する。優れた保育者養成のための給付型奨学金として「マーガレット・ヤング基金」への呼びかけとその充実を図る。

また将来の安定的な発展のため、学校債権を検討し学校法人柳城学院としてのグランドファンズの確立をめざす。